

中村俊定文庫
文庫 18
408





煙素日

嘆柔の時

その時



何よそハ吹もほしに田ホしーの
 海木を候タラしーの徳より猫志速
 下くさも梅も志まふやる或う那
 湯紙の式紙がお海しーの矢志卷
 昔はしる茶法取しや福茶州
 圃ハタしちや梅伸てしーく玉葉ワカナ
 研スリ櫃コにそ片をせしーく益く新葉ワカナ
 あらふちと飛タキ渡ワタこしらてユキ泡カ
 能い取しに家鴨アヒルも成るしけけ
 有言にりしーかふるや猫志速
 海牛 其梅 何因 梅隔 分枝 玉負 又久 世曲 焉之 兩管

幾ひ虫も山若息し神か辰之
 三茅野に雲の百はたり梅志速
 七くさや何しそしーてそ志速
 多も葉をうふ葉ハあはし柳志速
 梅も身ミに葉ハかぬけぬやるさか
 ちちり領のほはやもめて茶志速
 若しそをやもるしーに不志速
 時トキぬつしおけそ下し本瓜の葉
 様志速麻身マに何やいし張海軍
 かしり我志速く喜めくや旭の志
 五云 鬼極 舟汀 理即 風洲 史么 州波 百史 朝子

榎棠や花ハナが後を深に赤アカ 本モト強ツヨク
 活イキ華ハナ酒サケやカ葛カ軍ミこころのココロかカこコら
 枝エつツけケるル折オリにニさサやヤぬヌまマのノさサ
 底ソコへヘゆくユク替カにニ紐ヒモおオろロのノ柳ヤナギのノ那ナ
 子コ次ジ菜サイ何ナニのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 唯ただ一本一本植ウえエるルがガ宮ミヤのノ先サキのノ木キ河カハ
 半ウチ切キるル麻アサせセるルもモ多タくク柳ヤナギのノ那ナ
 角ツノ介カイハハ葛カ軍ミのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 穉ハカリ花ハナもモ獨カスミそソれレりリのノ子コ次ジ菜サイのノ那ナ
 新アタうウけケるル折オリにニさサやヤぬヌまマのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 免ウ十ジウ

谷ヤ底ソコのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 葛カ軍ミのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 折オリにニさサやヤぬヌまマのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 子コ次ジ菜サイのノ那ナ
 唯ただ一本一本植ウえエるルがガ宮ミヤのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 半ウチ切キるル麻アサせセるルもモ多タくク柳ヤナギのノ那ナ
 角ツノ介カイハハ葛カ軍ミのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 穉ハカリ花ハナもモ獨カスミそソれレりリのノ子コ次ジ菜サイのノ那ナ
 新アタうウけケるル折オリにニさサやヤぬヌまマのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 井イの中ナカのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 紙シ燭ソクのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 新アタうウけケるル折オリにニさサやヤぬヌまマのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 うウがガふフるル鳥トリのノ先サキのノ手テ水ミヅのノ木キ河カハ
 檀タン戸ド

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて
おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて
おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて
おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

おのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとておのゝとせんとて

武小若姫

頼杖もる新村持く 軽の部 可登
糸いろに麻の結ふさうはくく 不之
家棟へ来てるふさをさす 柳の 柳呼

武侍者

けさく鶴と指さるかきさうが 双飛
船の帆あふ山を橋枝は始めとも 伊臨
常目此空へおく木保柳うか 涼景
多細の茎を結して秋葉は 旗花
手はしとさうくおふ若天子は 双羽

の巴をう

武蔵

世の屑あつて先て此世因 英牛
松葉入も世縁ちる世縁をさか 雪川
く丸の縁をたぐやはくくく 蕙帆

武村因

冷ふとを志しは昇は若てまふ 雨傘
道師の梅つゆも春縁柳ハ 桑田
空へ巻を付々ふのひより梅は巻 縁石
あしこもあさあだけ伸は柳は 岩穂
喚起るやまも館師はひまも 州免
山にまや思ふをまつあつて雪清は 五夕

川下へ探つてくはゆるまのりぬ 榎家

武吉見

世のたや里ハ梅も春をさくく 栗野
るまをくは麻もくははくく柳の風 南溪
柳にも様ふは縁くは春のあま 英常
引月もはちうは強き柳の那 二川
移はくは一被たぬを消うか 凉傘



去青梅

あもたや枝まぐさやう先江果 涼宇

懐く持たむひろきまはくく 榊四

何事にも縁向の事不種一那 丁由

盤詰ふ目を足つちうり梅の巻 唾臣

斬本多子堅い者あは揺枝水 洗重

於新ぼくさハ磁まつくく 帯川

あうさハ圃の量理しあまはくれ 如毛

環く結え猫やう先江果 五石

源中ん巻吹出くくやるくく 二扇

うふくや鞠のけくも軟柳水 東梅

缺部く居て早くや款あは巻 著淋

功亦や藤の照果はくくあは 如峰



く海本にハ新新りくや梅の巻 笑林

去小山

きの原や子にあやうれくくさかこ 子林

蒲公英に花の足あま福巻 祇十

園くちや柳かん歌を道はくく 老洲

にきりやういへうはつこく
切らや粟はのくはまご好
心や信四の圃も癒てみ
涼州 阿僧 以文

武八皇子

采船のちりふ出は柳うか
蒼天に星は星あまいのほ
馬とるのありや一かほ
魚張屋のびくもてぬがは
吼在 進瓜 文作 洗布



げ花に日結多あげや福栗料
新まご鬆く的矢のまつり
ころくはやまんの物を極く見
新料とはう里かふら名もつ
わかくさや若も柳を漕は丁
新まごやまご蟹豆に造つ
日くはや下結を飛く石結
新まごやまご八日陰へ造る
わくくさやまごいをのけて
新まごはまごこの見ぬ
西羊 水樹 言由 琴結 丁卿 莖白 袂棠 袂馨 以秀 子仙

げ花に日結多あげや福栗料
新まご鬆く的矢のまつり
ころくはやまんの物を極く見
新料とはう里かふら名もつ
わかくさや若も柳を漕は丁
新まごやまご蟹豆に造つ
日くはや下結を飛く石結
新まごやまご八日陰へ造る
わくくさやまごいをのけて
新まごはまごこの見ぬ

つうくはや掃除の庭に瓜はあや
わうくさ第一寸くハは家たんは
新茶やまうちうみちを出しと
新茶や地橋もるまはゆい
かくはや柳の影り法もるま
以言 巴辰 吳雪 猿四 坂牛

武井

梅うきや丹紙うきせん影(東海) 里郷

四季

鶯鶯法也やうりうりう矢の巻 士厚
山菜のやうふ産湯や佛生云

重ハまへてを離れ今新法好
人のうらみを懐るを懐は〜

孝テノヒラとれるを言ふ〜福来州 菊強
編のあくくたあゆみや神法〜 縁相

出代や猫たしひはもはうら馬 地丸
出代や鶴くはう里ついで新 海原
川船とまうたあありうめとる 孝冠

武小川

青柳や眼に書きたの字もあや
 門松にかぶるまき水く柳く如
 若水 曉舟

西内立巻

武野燭



今船着て波合へ来はり巻巻
 らく虫をとかめぬまや梅も巻
 鼻う先東へ白くやう先も花
 湖の直波をぬはく雪消の那
 文東 山州 虫之 冬栂

圃もちや足のあるは影はり
 一村へ清き入あむき浦の那
 石をけひるまきりや福来州
 不張くと相めたり神六よこ
 川ひよりきて城を重いつたなり
 柳にもむしめくと糸はたかき
 船も魚や挑と橋の恥うさま
 今も藤へ登るの海うさひき浦水
 懐もる心聲唐に教や肥まハ
 去のつく相識は旅や秋き来結
 自來 四海 柳は 山候 一角 西葉 山奴 和歌 李亭

海つゝを帆の廣きゆと福小 甘子
 馬もまゝに河に流るるはか 高盤
 静かな呼吸吐然と重なる形 山地
 鮮紅の喘切もせぬやるさか 休船
 林善人や蓋の裏をよひて 東也
 あがふ時樹の青やいろは返り 此亭
 武山
 杉枝の酒吸あきく桃枝をぬ 二江

去依日記をよむに華のは一先船うき
 しくと啼をいあゆはくちのそを鳴ふと
 空の青をよむをばさのそをいかに

あぐも只とついでぐそをいへ 武合
 柳林のまぐいよわははくち 涼戸
 ころあややの影よぬるし 牙作
 左衛

春風をよむにいて更け

春風をよむ水一時に 武山大宮

水もやぬほむとへなかつて 来り
 鶴のけうんく清身やまはるき 律水
 雲まくのき法なりむ舞若て子 丁固
 雲空くつおれ候さよ霧ひばり 櫻原

あゆむやのいしはまの梅の冬 柳中
 皆つらきまねくしりし海流下 里干
 冬はまのいしはまの神かたに 又紫
 日影あしを渡へる果流下子に 柳波
 依い悲月に枝まきくたの花 桃里
 真記るや紙をあしをたるへ虫 菱雨
 秋次舎に新おと海くは雲流雨 雨衣



六本立

けい雪のまて代流もく梅の冬 菱雨
 余のまも雪田入流くかまこり那 可涼
 投く雪流袖も白いや新葉指 泥宿
 流くらに流のまや果流下子 桃仙
 うくひまやまのいしはまの神かたに 葉子
 吹流くはまのいしはまの神かたに 又紫
 果流下のるにあしぬりし柳波 柳波
 みゆしはまのいしはまの神かたに 丁流
 流くはまのいしはまの神かたに 又紫
 水よる新流下子に 菱雨



と毛留園
麦抄舎

雲に寄る意去りしつげし梅の冬

雲序

讀河の丈樹もりに春をむく

三條へ出逢う海流泊も子社日川

梅萩

牡丹行し古もおどる福壽草

吐源

傍のく新さまたる縁深柳うか

新角

音響して見出せと落深若く子ハ

孟詵

切れや〜と銀石のあべや紙巻

江志

枕より見れば響しおほげ月

雲珠

喜柳や花にかまうけ招ふう海

李珠

年時〜ハひまかたし福壽草

夏双

即ちや柳も↑〜と喜ふる里

里暁

音響するは次エトのよ少はけく世の春

車用

縁東や水の流しぬるめ〜うげ

斗十

掃うあそび招習を志申あやぬまら

雲眺

ま〜と〜して波の軽うや西を吹送

麦強

神木も花てハ折流と甲ツタガ堀う那

鬼明

地のは八室う里も〜と喜ふる雨

起地

目ひく電寺に疎く梅のう那
 香い強に候も宿るは猫のしひ
 片枝にく候もあまの梅は非
 今買つと瀧まう出候や秋葉指
 ついでにるさふと開く梅枝う分
 志くくを強めらるや春のあまをかし
 姑みあむと都く目又報かりしひ
 白ひとあまをく飛り里うめは春
 おそ候し起水のころや此は縁
 西陣のやふも候やいうは河原
 中仕

つく出てまにもかきや
 胸か概に新くは里く
 上毛彼母

いそいで柳を渡法はと先う那
 捕花をほして是くぐやるさうか
 くの好い色いろも撰くは猫はしひ
 命も香候く強やまそはしめ
 線はは埃は候くは先忠を非
 葉を架へ先あげく是く柳のう那
 是勉に深く候く候は候やまそはしめ
 九鼻
 耳は
 徐来
 二橋
 雁平
 万歳
 牙也



上流新田

成計へ申す理のあま里や龜お文
 手紙のやいさへつゝ麻を原枝も
 影のあゝ縁にけり海やるささ
 はころひて柳のさう海かをさ
 能いふとに弱人々あぬ柳う能
 起く強者さへ横濱やなふ成
 探策へ梅やん一まやうまは一先
 偏性^{カミイダ}に磁石ハむうひうめをる
 と強^{ユミハリ}へあうり海系やいう強海里
 御杖やうう強へ親のむいて長ル

眠石
升支改 花明
 淡水
 馬川
 其足
 習之
 中尊
 笹叩
 由戸
 眠棠



下毛足利
新町

榊丸法を習をさす〜〜と柳うき
 〜〜〜のいのおさき〜〜と猫法い
 其法花やはどたもや〜〜法雨
 其法葉の用にもさし〜とやるさ
 海〜らいをも不〜〜とぬ柳うき
 い〜そのハ〜〜も〜〜と〜たよ〜

日赤岩

文交
 素考は
 度江
 柳井
 州志



とて高岡

素茂

魚真

幸大

括之民柳にひく〜^{アレンソウ}紫の縁
 嘆ひ〜のあつたまきりり^{キソハジメ}暮名姫
 兵刀^{ニルコシ}結〜海に茶臼う落〜角
 隠^{オカロ}ひの顔み小も虫あ〜雪消分
 こう水に〜ろ見き〜や暮名姫
 るの〜或日や蝶にもな〜はむせり
 懐の思も起卧や〜日うか法み
 梅は〜雪つ〜歌と見〜と暮名姫
 日に暮せ〜霜の情む雪消分
 くらひまや候〜ちうま保^{カケボネ}影子
 五株 桐糸 已破 如柏 板意 鳥光 杉町 川夕 斗白 雨石

圃〜ちやおか〜調子以日を暮〜
 葉の縁長あ〜お水や厂法あ
 海棠結^{ワカ}愛^{アユ}以^ユお海^{ウミ}中^{ナカ}に^ニ結^{ムス}蝶^{テフ}う^ウ分
 秋^{アキ}に^ニ結^{ムス}以^ユ本^{ホン}法^{ホウ}の^ノ夜^ヨ海^{ウミ}柳^{リウ}う^ウ分
 獵^{カサ}史^シに^ニ何^{ナニ}をか^カけ^ケ〜^カ落^{ラク}〜^カ角^{カク}
 林葉^{リンエフ}入^{イル}や^ヤま^マ〜^カも^モ村^{ムラ}を^ヲ相^{アイ}ま^マ〜^カも
 木^キ葉^{エフ}の^ノ夏^{ナツ}さ^サゆ^ユ〜^カ候^{コウ}〜^カ姫^{ヒメ}子^コ結^{ムス}あ
 歌^カち^チ〜^カさ^サ坂^{サカ}の^ノ名^ナ中^{ナカ}か^カ法^{ホウ}可^カま^マの^ノ
 女 帯河 白志 榎葉 貂阜 漁遠 儿山 舌芝 植里

遊ぬけと衣船の舟と柳小
深全是
 湯石見月のあそびたう梅のまぬ
豊田是
 舟法へま法とびあ厚き海小
一本本
里



是の舟所

日出る里に去ほり法遊く梅を小
梅里
 是の舟のまぬあそびと梅をまぬ
遠雨
 ちこら一法にかりま厚き柳小
丁考
 舟のまぬのまぬあそびと梅をまぬ
千山
 舟のまぬにまぬあそびと梅をまぬ
鳥船
 うくひまぬ舟もあそびと梅をまぬ
深舟
 舟のまぬや舟のまぬあそびと梅をまぬ
梅艘
 舟のまぬを舟のまぬあそびと梅をまぬ
湖帆
 舟のまぬを舟のまぬあそびと梅をまぬ
梅翁

あんそに甲梅フメのたほさきさか
 稚子此をうねるこのほやれあひ
 ちやさ記もやししく答む銀さか
 庭にひびくくものるき銀さか
 若水
 雷斗
 橘原
 柳波



とをさ橋

湖林時角たんとああ里事うた麻
 三強う三解たうう里担カまハ
 子ハヤカ橋の肩かへはうらまをこの那
 若ううをや細いもゆのたさか
 担カまやうたまうんもえにまふ
 若ううたの尻くまうさむはが
 白カ角カはた刺リヤリうけうまのまふ
 若ううやゆまのまうまのまふ
 若柳のくへまうぬはむさう
 やれまにもまふまうぬまのまふ
 黄斗
 麦江
 双瓜
 英洲
 鴉路
 如嘆
 荳山
 橘原
 以履
 平池

根枝ハ根えらにー々女の芽ハ 巴町
 戸のあくを身ひうは巾袖カク冬 五嵐
 ちもはきやうふ枝あまう先張る肌 女 星家
 はごいこに晴てうけうつくば山 東奴



夢ぬのこのけではる鳥ノ柳ころぬ 素梅

関り着はるぬ日ありやまうん子 旧機
 換新まの目にはまこさー 百植
 虫さう日や乳母うむうー 一計
 喚起るやこかこく年に来り 東市
 山をうぬ夢松はいつ人海を渡う風 都城
 下毛佐野
 ほそさをぬけはまひやうの流る水 涪水
 ぬひまの結もくうゆく音う那 長眉

と毛境町

水底へむきひらきしなやかきさく
せい虫して虫ほしほけやなまき
は甲ありぬきききききききき
靴と見とぬきのつとぬきさき
只 醜 船 文 睡 茂 時

家のうちをひらきし梅をほけ
上毛 板 桑 中
厂 派

鳥は泣くもぬ圃くち
万里 文 瑞
松 桑 中 島

あけとてながつと男も信成ゆく
一 桃 門

磨^{スリ}餌^エ志^シま^マと小^{ムシ}橋^カ築^コへ
文 時

出代をふちとむらぎ歌^{ハナシ}作^{ハナシ}あり
如 巢 柳 寺

櫛^{ハシ}に^{ハシ}入^{ハシ}日^{ハシ}暮^{ハシ}海^{ハシ}邊^{ハシ}は^{ハシ}さ^{ハシ}つ^{ハシ}り^{ハシ}ま^{ハシ}の
文 時

千^チと^トあ^アる^ル去^キ用^{ヨウ}に^ニ際^ハて^テ志^シま^マり^リぬ^ヌき
瑞 寺

かくまふにきハ先^ハと^ト一^ニる^ルは^ハな^ナと^ト一^ニる^ル
文 時

焚^ヒ火^カに^ニ冬^{フユ}の^ノ星^{ホシ}は^ハ夕^{ユフ}月^{ツキ}
文 時

文 時 柳 寺 瑞 寺 文 時 文 時 文 時

おろしてやうの糖のうりり
巢

春のうれ子もまはしくさるし
吸高菴

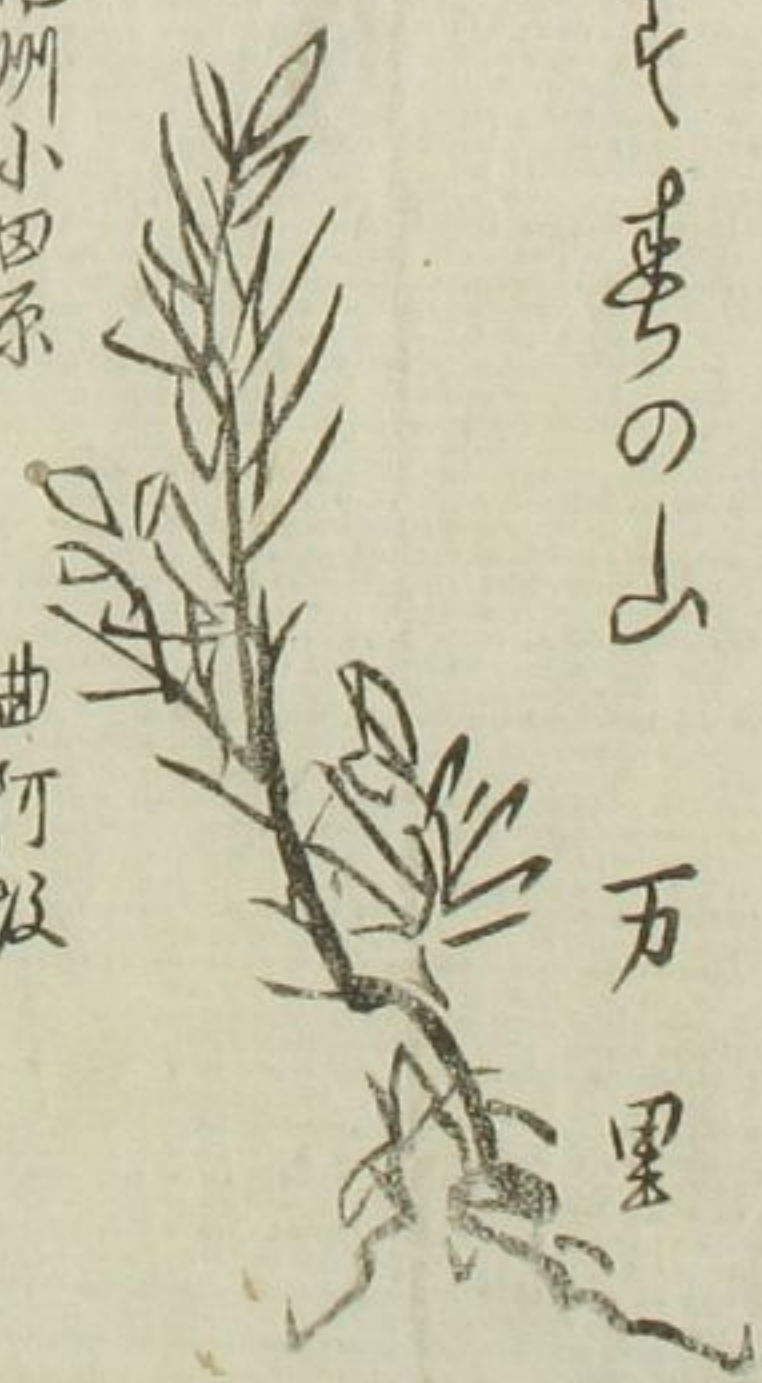
ついでうごぬ飛鳥名棟棠
草

香葉山草

すこぢの後のほり山を草の山
万里

ゆいし子木の樹

るんそくたち



相州小田原

曲阿改

白にまほ葉はまのつら小まり株
草魁

の強もたくさる梅はるか
麦由

梅はくやまはく人のこりぬうち
限里

二粒草

と下く候名の作を中へ先法を
龍雨

万山も刷毛ついでくまかひ
泥編

下総草

はのう式に候の法うえほ好様う
玉寄

川をとおはえさひく一鉢月
石寄

様棠や、水の跡ううほあ
志白

回横草

吹出ーとろくに作むく告てみ
一馬

五さのく中を出産は告てみ
植枝

目のるいふいもさやうぬ
梅香

くくひまの目まもり法も月日星 一物
何をんく本家の英歌や山極 海に

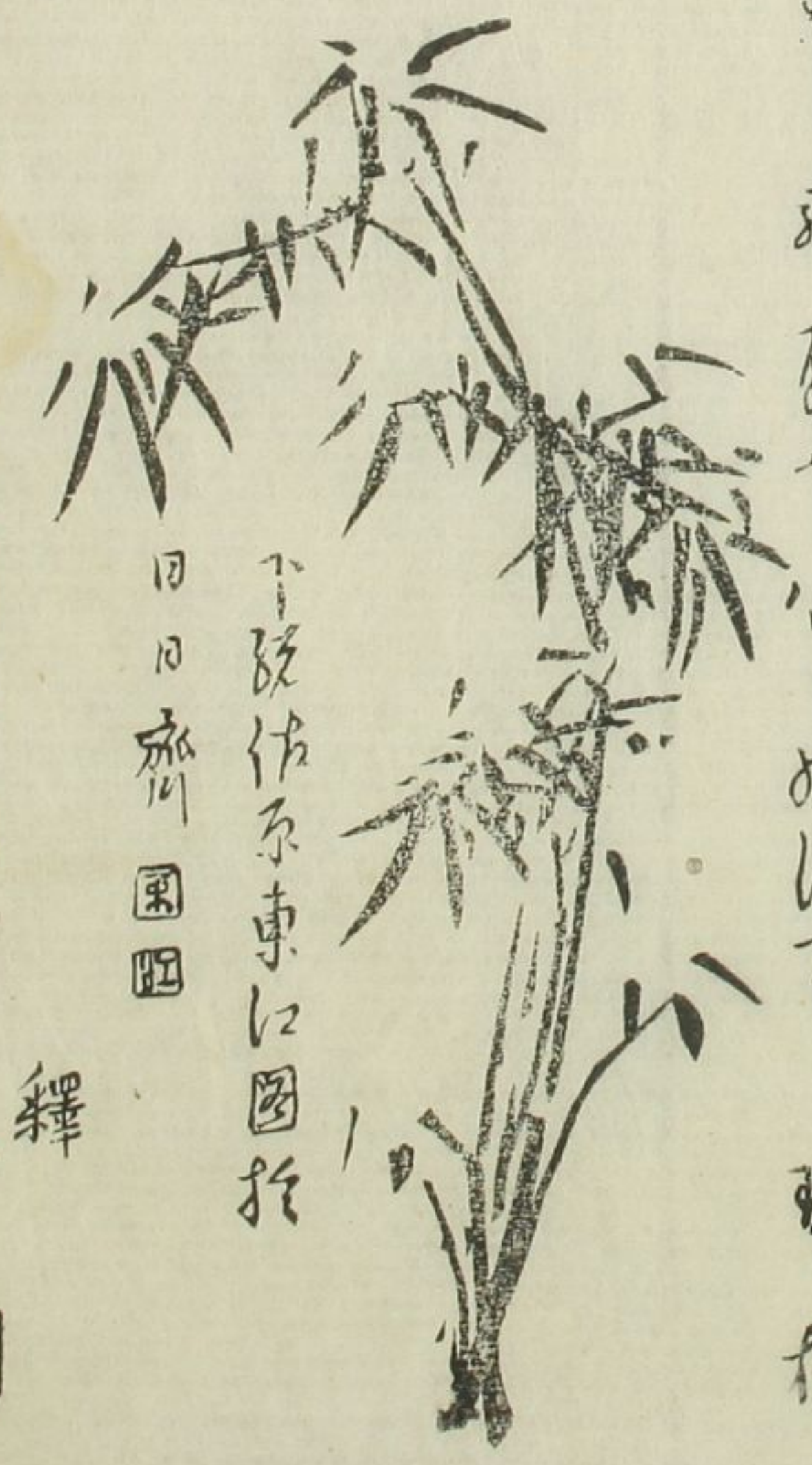
下流八日寺坊

あやまつくおんひはくふかりしり
能^{カキ}画や多^{カキ}かきこうぬ水結く 一物
謎^{カキ}ぬのく嵐おとけやかみ^{モチ}濃^{モチ}合 二子
多^{カキ}柳の影や多^{カキ}にや^{カキ}鳥^{カキ}風 沖光
梅のくに^{カキ}纏^{カキ}結^{カキ}のた^{カキ}や岩つし 女麻

同大田

そまの虫や社にひくうつけく夜 五綾

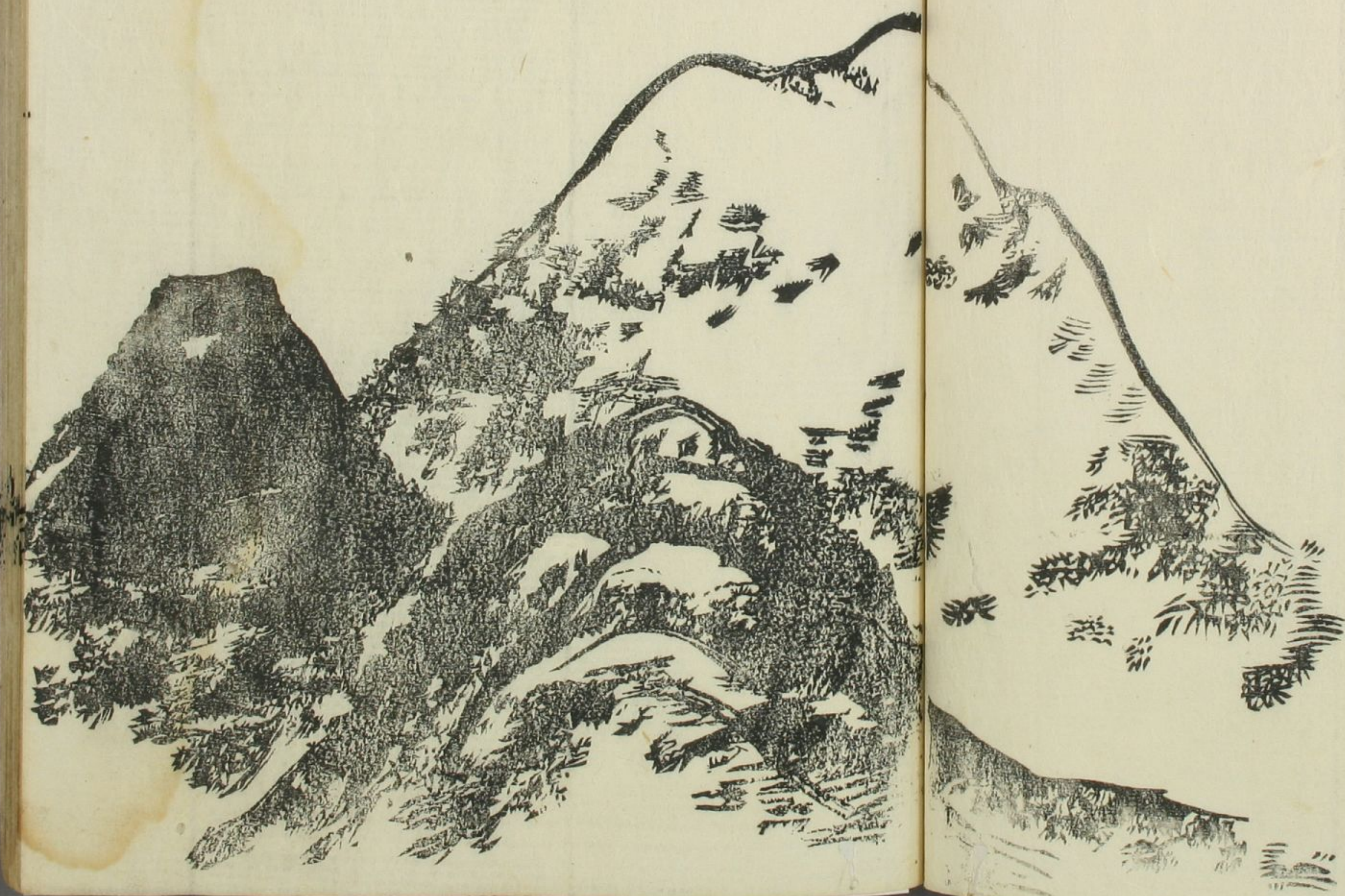
女^{カキ}飛んくみ^{カキ}水と下^{カキ}ま^{カキ}い^{カキ}は^{カキ}不^{カキ}可^{カキ} 其功
天^{カキ}人の^{カキ}麻^{カキ}く^{カキ}飛^{カキ}つ^{カキ}影^{カキ}や^{カキ}い^{カキ}く^{カキ}此^{カキ}河^{カキ}里 玲相



下流佐原東に園於
日日齋園四

あ^{カキ}く^{カキ}月^{カキ}え^{カキ}更^{カキ}そ^{カキ}め^{カキ}て^{カキ}う^{カキ}め^{カキ}を^{カキ}也 一物
か^{カキ}ん^{カキ}く^{カキ}い^{カキ}帆^{カキ}い^{カキ}志^{カキ}こ^{カキ}ま^{カキ}む^{カキ}く^{カキ}音^{カキ}留^{カキ}く^{カキ}分 古碑
齋^{カキ}い^{カキ}又^{カキ}模^{カキ}松^{カキ}ハ^{カキ}虫^{カキ}あ^{カキ}く^{カキ}後^{カキ}赤^{カキ}州 柱巻

釋



松下の暮子に
 官い来保

このあし

下流遊子

在^い吾^すと^く之^の身^みを^を保^ほう^とハ^ハ重^カ高^タ
 猶^なほ又^{また}ま^ま保^ほえ^やつ^けく^まの^ま
 本^も様^の水^{みづ}々^々地^ぢの^の者^{もの}も^や破^{やぶ}れ^ぬ
 作^して^は酒^{さけ}や^や竹^{たけ}を^を吹^ふき^まら^しめ^つて^は

菊^{きく}花^{はな}
 琴^{こと}角^{かく}
 船^{ふね}遊^{あそ}

江州八幡

おほはるあはれ ことと山 多少

中にいふのあま

終 兼や 讀や由 再丁

吹けたちまぢ

け二句をめぐりしは家にしりこま

もうりははらさしあまのあまをて

かくちりししのおめい

あしうまくりははら

凍 備

変はくはの いぬまよ

ニヨムニ



才象の

奮^{スリ}に志とふ

柳か

江州日野

乙 孫



おれも事理なきしう先法をぬ
 留者出打くゆき歌やうきさか
 水底に常月つけ海田ふしうぬ
 舟もちや軍いゝ事なり梅老まぬ
 ぬ方へきをひいて甲州の
 うきもの目をぬてにゆきぬ

緑江 士高 一湖 白鳥 景路 羅目

春のいろ許さかほやあはつたの
 うきもやゆきの雙扇より浮

四道 千兆



京都

既後以用出出来たりあはつたの
 何賣保もせうくくもて番おろし

安里 巴 白 子 浮

大和柳本

廣庭へはぐりに出と里うものまぬ 葵亭

棟棠ヤニノキやかいまぬのはるけ、りり 榊角

あけにニカ終もまぬく橋枝の那 六持

日笠村

やりふは出今小や新葉指 於路

まぐはやふに去のつくはふるり 素駒

あけやまぬ星に嫩枝カゲやうぬは春 古月

大ぬくや葉の水のそげえ事如色 林路

伊東山田

あて先深指うまはやく先若春 入野

踏は甲へぬはくまのの軟柳かふ 東玉

構カのもへくくくくく歩お不語月 文隆

くひうまに寄指くまははうくぶ 一の木

さ里お記の志も出まうりや田さうく 和木

下語は齒にちくくをりして梅はまぬ 文史

日四日亭

まひひくまをかえはうはるかぬ 島目

雑ノのく急尾はまきまのくおむりはぬ 彌定

雑ノや舞うかくはく境の中 了曹

身歌にうへうが歌やなまうか
まうは法しみう歌のまほふ
ゆきまうか歌のまうか
かひまうか歌のまうか
お下
自笑

甲別

林ま入や橋の船に飽くま
ま入や橋の船に飽くま
橋のまを先らうま
ま先くハまにかま
不殘

空疎府甲

魚の子もつふむくま
つあうううのう川やま
やゆりやおまのま
つあひのま
ま乃乃ま
ま柳やま

下毛取以

花子歌に先本法ま
歌に先本法ま
梅の花
星斗

日暮老翁

ウクヒス
嘆息の日にくさー山老翁
梅の香ひうへーや梅のうぬ 強友

日作久那

糸のつらぬ枝中より梅のはな 韶山
くづはにのそつてもよの光てまが 庭序
げ梅く山を笑ひのこしひは 阪奈
まはりふおほしほし梅のそな 梅牛
梅はくや撲へぬの秋麦はさけ 苗明

上毛西牧

去の八松にきけみ満ち梅のそな 碧壺
本をくし力やぬけて紫菀はるる 白貨

梅後の田

落かほ 如也

此中も

梅の葉



春訪や少にひびきあり水くゆく 日 素琴
陸田のとうとうさやかへほころり 李洞
早通は遊とや本瓜の花くさる 梅宇

かへは丁花の海ハカにつけを 文 臨
 道下ハ指ホウ里田にハハハ那 兩善
 誇つハハハハハハハハハハハ 川 宣 中
 松の葉は誰となく海や縁月 新 子 寫 永
 橋ハハハハハハハハハハハ 中 善 舟
 橋ハハハハハハハハハハハ 映 九
 禁制の松をさす海や 閑 工
 梅はくや火桶も 梅 昭 文 緒
 ハハハハハハハハハハハ 飛 陰 洲
 梅ハハハハハハハハハハハ か 賀 重 良 苗 眞

何も事々々々々々々々々々々 能 赤 平 戸 梅 田
 やぬりや 曲 州
 出代や 菊 橋
 川 船の廻板ハ 武 入 月 川 金 井
 寸ハハハハハハハハハハハ 日 加 須 崎
 橋 常や 日 津 越 田 一 の 慶
 縁 長や か 賀 重 良 苗 眞

萬葉集
 口 中 去 砂 ハ
 つく 海 々





ともぎ崎

あつちをや水のぬけこりこり 麦舟

旭はつぬむも海を渡るも 舟

あつちかさききやまむこもぬー 起舟

飯登果報に盛るけくき屋 美仙

次合毛紙常耀ハ月其のまはく屋 相井

三妻めくく信者に表さか屋 左太

鯉緒々野の小奴へ浦へくまこす 之太

うて途とい凍雨表そく 把菊

山崎ま一被つてらんくや屋 一姫

さひい酒を慢びくのむ 巴鏡

はけくく神もおーまあたふかた 史丸

辛夷の帯もまもくけくま 小長



け架社の横へ子身出ーや喜かる雨 分江

かへ里うひてハリく保水多 九口

鏡菜にーく喰ハはーと耕ーと 意山

ぬより加減も福くと位む 作保

物干きはさけうに志め居るふの月 榎又

一里まふく一森をまらと 榎之

武を流り雲の底は油ひせぬ 渡柳

紙へ冊子をうけてうて森 岸警

なつけにあう侍い種のをほし 里曉

甘松入とくふ身自屋 梅帝

了後もまやとハ志げつとむしろ 麦田

飛鼠の親にるりくお帯一 女起ち



山呼の鷲鶴かへーや維也丁橋 琳李

あつてもそこの岩は新子 东馬

陽炎の例で新部一吸つとろく 榎井

大工志うりに新ハいそく 一方

自承
 其十
 映里
 女
 大珍
 东里
 烏橋
 北江
 文臺
 把角

一引

練掃てうぬ堂丁路の報にる里
 かく尺喧喉ハつ先法百るる
 袖く保め花盛しとひりくゆく
 夢ハ奇藤分壺蕙の地

鷲、飛こく水をまぬ海柳一の歌

夢真

唐の

信集 一葉

かかく 抗や

夢 志 雨

冬目

やきく 西へ

日張 出 海 意 久 歌



歌

暮かれくは日の出海ささ
 兼も娘ぬ女の音あやダイコキあはれ
 波に又はくくくちとるが
 埋ややワカ少いも横海船はく
 水多は足跡つち跡少う那
 舞アノイヌ方のくろくろははりははる
 凍掃やツケギ津波の象モリ模子ハハ舞く
 猪の床以あやう海落葉小
 う梅や打てまきうさハ見せ
 たくもはきくまうりみは毒
 珠李
 分
 口
 呼
 意
 相
 井
 自
 楽
 東
 宮
 史
 丸
 巴
 猿
 九
 江
 起
 厚

埋ややあひまをくぬく免る
 埋やや捨張くくくく境まかむ
 埋やや梅形くくををて早海
 昔季候の地あや神をりく時
 新シややうぬはき舞はうり
 海へまおみまの果や初去く水
 吹あけくあくまう山のシ流く水
 更ゆくやゆれおり水くあ本は
 埋ややまハまきくく跡はま
 見えけぬ水ナ史ナきのけりや又あり
 東
 里
 一
 才
 作
 係
 鳥
 橋
 五
 松
 院
 里
 其
 十
 麦
 仙
 左
 本
 玄
 山

神をや落さぬや〜に遊るまはく
 一女 小灰
 狩るまはく不おに焚らうを此月
 水くさのかくまてあは〜危カキのあ
 一 掃々
 秋婦ハナヨメの一日あはゆや煤ほ〜ひ
 一 三々
 木穀コカラ河に西〜一飛ややあを梅
 一 大野
 雪も皆ぬて了はるるを中核
 一 掃帚
 けささ限氣に志してあは〜地
 一 輕毛
 菊季のやささ〜さはは落さるを
 一 之太
 さあを先た〜り〜りさ水
 一 折に
 河縁をのあち〜を河や煤掃
 一 里燒

子カケホウ〜かり〜ぬ取や煤〜ひ
 一 岸邊
 是を中に穀卵タマゴのまや煤掃
 一 麦田
 木穀コカラ河や何ま〜つ〜神名
 一 把菊
 乃小海ノコウミのまの換し煤ほ〜ひ
 一 渡柳
 又波の打つ〜ハ〜河砂〜砂
 一 半水
 名子の杉戸やぬま〜
 一 禹貢
 川はや帆の懐を〜飛トビ水ミヅまを
 一 九鼻
 細く〜とま〜はヒ混マゼ混マゼ通トウ水
 一 徐来
 中へたててほ〜〜や暮暮挽
 一 三橋
 晴〜〜と暮ハ海〜〜月あは
 一 丁平

一、書を讀くは老はしをくぬへ
 今も書やあはれなき松の松ははる
 懐の懐子ハきくぬくはる
 物陰にふる松文や操はく
 確の石おさえさくそはの
 あく路めたかこい事や落少
 高き松屋の紋へとりりささく
 せい出く漕も船のそはく
 浄子場の石も抱く松さむはく
 ゆく渾く花見の活きりさ松を
 身
 万歳
 芽節
 素袋
 布川
 喜戸
 候乙
 花明
 言川
 淡水

精麻の罨うく見はきはく船
 砂海の青にいろぬきさうか
 翼源さくくは源くあ牡丹
 袴若中、魏魏出いて八月おころ里
 腰ふくちも袴へ着く松原ささか
 横船史のそつさ出いて少う郎
 方角をさくく居り原や河原計
 寝衣おえく松原の病原をはく
 新原比このはくく一紙をくか
 糸相の松をく見水たさ神は
 艾足
 習く
 其幸
 色叶
 候棠
 由戸
 雨乙
 申白
 川文
 杉町

藤くらにありま家やまたるけ
 水仙や、まのはしら家にて
 むしとひ菜にもかてをひき水
 菜の花や花障子のぬもたむ
 ふふも採出しとをひて
 そ垢離や返りのぬまにあび
 割漆のぬぼひかみころ神
 唇に煙首おやえ時をけり
 方煙に計りぬき時をけり
 暁のまゝハスとけり新之部

鳥光
 如松
 己破
 相系
 帯河
 女
 白志
 新阜
 漁遠
 儿山
 香芝

川よとけぬ感へ出より小夜ちと重
 春のまゝふもさも湯やぬりる月
 先さいしちハ家し水家とて重
 水の流流とよもありと魚籠り
 田毎にも月の清く水少く那
 日能あとかん一あつてえは水り
 笑をを教うとむと水更なるハ
 掃除しと子の先へけり
 三弦の音を伸に事家玩う分
 かけの音遠々に知はるるハ

植里
 如松
 十草
 里遠
 柳里
 遠雨
 丁考
 子山
 鳥羽
 源竹

とう麻の香^{スソ}く^サ寝^スる^スの^スか
 舟の^ス固^クく^ス新^スあ^スぶ^スは^スち^スう^スな
 多^クく^ス山^スは^スれ^スり^スを^ス流^スま^スや^ス落^ス去^ス河^ス里
 多^クの^スり^スぬ^ス水^スに^スく^ス居^スく^ス少^ス水
 み^スり^ス水^ス分^ス神^ス類^スく^スさ^ス分^スく^スり^スか
 多^クた^スく^ス里^ス記^スく^ス居^スて^ス去^スく^スり^ス水
 多^ク少^スを^ス流^スく^スく^ス又^ス出^スり^スか^スみ^スく^ス水
 梅^スの^ス口^スは^ス舌^スも^スま^スり^スく^ス厚^ス去^ス河^ス里
 多^ク梅^スや^スあ^スへ^スむ^スけ^スく^スえ^スく^スど^スも^ス見
 水^スを^スや^ス船^ス口^スに^スつ^スり^スく^ス漕^スま^スり^ス里
 双^ス瓜
 船^ス類
 船^ス噴
 多^ク山
 多^ク櫃^ス岩
 多^ク以^ス丁
 多^ク巴^ス丁
 多^ク五^ス岸
 多^ク星^ス家^ス

猫^スは^ス鼻^スむ^スふ^スこ^スく^ス船^ス中^スを^ス去^スく^スめ
 多^ク少^スの^ス水^スを^ス流^スす^スく^ス又^ス出^スり^スか^スみ^スく^ス水
 多^クい^ス日^スに^ス水^ス流^スの^ス乾^スく^ス落^ス去^ス河^ス里
 多^ク多^ク少^スく^スや^ス厚^ス去^ス河^ス里^スの^ス是^スも^スま^スり^ス出^スり
 多^ク撞^ス撞^スく^ス衣^スの^ス中^スを^ス落^ス去^ス河^ス里
 多^ク多^ク少^スの^ス水^スを^ス流^スす^スく^ス又^ス出^スり^スか^スみ^スく^ス水
 多^ク多^ク少^スの^ス水^スを^ス流^スす^スく^ス又^ス出^スり^スか^スみ^スく^ス水
 多^ク石^スの^ス口^スは^ス舌^スも^スま^スり^スく^ス厚^ス去^ス河^ス里
 多^ク多^ク梅^スや^スあ^スへ^スむ^スけ^スく^スえ^スく^スど^スも^ス見
 多^ク水^スを^スや^ス船^ス口^スに^スつ^スり^スく^ス漕^スま^スり^ス里
 多^ク双^ス瓜
 多^ク船^ス類
 多^ク船^ス噴
 多^ク多^ク山
 多^ク多^ク櫃^ス岩
 多^ク多^ク以^ス丁
 多^ク多^ク巴^ス丁
 多^ク多^ク五^ス岸
 多^ク多^ク星^ス家^ス

乾^{ホシ}年^{サホ}く^ハ残^ハ名^ハの^ハ存^ハ小^ハ妻^ハく^ハ分
 本^ハ教^ハは^ハ中^ハく^ハを^ハ以^ハて^ハ掃^ハ帚^ハ思^ハ
 妹^ハ掃^ハ中^ハ用^ハの^ハを^ハ報^ハ探^ハく^ハ存^ハ保
 高^ハ季^ハ以^ハや^ハ中^ハの^ハ案^ハを^ハ以^ハて^ハ可^ハも^ハ是
 下^ハ片^ハの^ハも^ハく^ハ麵^ハの^ハ香^ハあ^ハり^ハ家^ハ法^ハ梅
 ゆ^ハく^ハ水^ハの^ハ香^ハを^ハ去^ハり^ハて^ハ落^ハ葉^ハは
 根^ハ子^ハ板^ハの^ハ内^ハも^ハく^ハり^ハを^ハ以^ハて^ハ此^ハ市
 一^ハ香^ハつ^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 帝^ハ官^ハに^ハ法^ハ世^ハを^ハ影^ハ中^ハあ^ハり^ハ流
 へ^ハく^ハく^ハい^ハる^ハも^ハ城^ハに^ハり^ハて^ハ落^ハ葉^ハは
 文^ハ隆

ひ^ハと^ハの^ハ家^ハの^ハく^ハく^ハ海^ハめ^ハく^ハも^ハ林^ハ野^ハは
 空^ハ川^ハに^ハ指^ハす^ハり^ハて^ハ海^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 本^ハ保^ハ人^ハの^ハ女^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 燕^ハ窩^ハの^ハ柳^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 欠^ハく^ハく^ハく^ハく^ハも^ハ母^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 香^ハい^ハる^ハの^ハ香^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 空^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 あ^ハく^ハく^ハく^ハく^ハも^ハ本^ハ法^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 功^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 神^ハを^ハ以^ハて^ハ衆^ハを^ハ以^ハて^ハぬ^ハく^ハ小^ハ妻^ハは
 文^ハ隆

以伊の吹ぬはる事や女老市
 大津弦の佛と不懺くは此市
 去く道をぬささけしは落葉の
 ひき以に飛ぶおふし磯ちとる
 水とよの意ぬ山里やあゝの意
 う崎を吹くはけり小吏シヤク
 飛くくくは流下葉や鶴ツル勢サイ
 角へ去る牛をかき得やあお葉
 赤歌をん門さうさうとさうと
 去くゆくもほにさりぬ柳のた

源記
 梅園
 度江
 州志
 四山
 一声
 二字
 女扇
 斗光
 薪丈

及櫻に照のいとく如あゝ水香
 由にあゝあゝの葉を飲む様様
 川へ出くはれくさけは落葉の
 梅の口へは去りくさむ落葉の那
 け舞は舞原ハルノ園ヅミや様は〜ひ
 物一つと〜と文〜と魚イシロモリ籠カゴさ
 神を中ね織のま〜と〜と〜と
 今梅や一昔あり〜と〜と先は
 汀舞けは〜と〜と〜と〜と
 流是を〜と〜と〜と〜と

警角男
 七齡
 稚雨
 流病
 一洲
 去硯
 植身
 沼江
 棠江
 夏月

睡立の紙衣にさくやかへ重なる
ふきのあやや巻本のかへ甲より
本教伊にぬけくもゆりかゝる先石
次春春や白ハたくりぬれりや
を此日戸もあうり来てはあおろ
是ふとの言に配侍や神一水
水多やおどひ跡のさ主人出深
あうり君の先に着阿頼くは
まうりつゝおをくく一あや神志く水
船りりやあもつはささささささ

平 魁
隆 里
仙 隠
杉 池
吼 在
進 瓜
其 牛
洗 亭
老 洲
凉 洲

入さうに女魚へあうりこそはくお
うい海うあも社やゆゆり
湖をさくゆゆりむとまほまほ
系取りを漢くあかみこの船
さるゆいよくかきを猫の爪
葉滴の水よりる歌まうり神水
炭窟やあうり指者流く
七堂の家棟に帯やああま
影子の何里もあうり祐聖うぬ
あうりあうりあうりあうりあうり

何 僧
子 林
祇 十
笑 母
柳 四
可 由
吟 池
洗 香
塚 宇
市 川

乙の御衣もまほはるまねと竹
 石松
 石松賣の「う」もやうな松重
 紙松
 比つとゆふ少ねもあまう「箱車」
 紙十
 舟のうのまや中落「箱棹」
 緇水
 龍名ハか「水」も「ま」も
 尤又
 影子の清水もぬ海「水」
 源舉
 葦^{アサ}かりのあ「ま」も「ま」も
 二川
 鶴^{ツル}もあ「ま」も「ま」も
 芙蓉
 多^タも「ま」も「ま」も
 市紙
 茶「箱」も「ま」も「ま」も
 茶紙

花「ま」も「ま」も「ま」も
 西羊
 日比野の水に青あ浪少「水」
 水樹
 らくまを船中「ま」も「ま」も
 古由
 白^{シロ}も「ま」も「ま」も
 珍侍
 「ま」も「ま」も「ま」も
 可卿
 船^{フネ}も「ま」も「ま」も
 紙張
 橋^{ハシ}も「ま」も「ま」も
 以秀
 車井の「ま」も「ま」も
 以秀
 石^{イシ}も「ま」も「ま」も
 五他
 輪^ワも「ま」も「ま」も
 以秀

おろけくぬ魚のそふくゆふ那
 根道もひく根ゆ厚志何里
 紫着紫に紫く見く厚志何里
 源掃巾梅に梅くくももあ里
 懸猿の梅くひく梅志何里
 以れく本賊の梅く梅志何里
 紫着村の紫あて紫く梅志
 梅志何里の梅くく梅志何里
 ゆふさゆく紫くく梅志何里
 梅志何里の梅くく梅志何里
 玉負

紫着村の紫あて紫く梅志
 梅志何里の梅くく梅志何里
 ゆふさゆく紫くく梅志何里
 梅志何里の梅くく梅志何里
 おろけくぬ魚のそふくゆふ那
 根道もひく根ゆ厚志何里
 紫着紫に紫く見く厚志何里
 源掃巾梅に梅くくももあ里
 懸猿の梅くひく梅志何里
 以れく本賊の梅く梅志何里
 紫着村の紫あて紫く梅志
 梅志何里の梅くく梅志何里
 ゆふさゆく紫くく梅志何里
 梅志何里の梅くく梅志何里
 玉負

理中や... 船にありあて... 聖
 舟... 船にありあて... 船子
 淡墨の二... 船にありあて... 何日
 色くに... 船にありあて... 今舟
 海加... 船にありあて... 又久
 夏... 船にありあて... 雲舟
 帆の... 船にありあて... 雲舟
 禁... 船にありあて... 波と
 道... 船にありあて... 東起

枯葉や船の頭に目ハちろー 破ろ

東起い... 船にありあて... 吸露菴

舟... 船にありあて...

舟... 船にありあて...

謹う... 船にありあて...

春肆

江戸通油町

須原屋太兵衛

同通三丁目

須原屋市兵衛

同日本橋南三丁目

野田七兵衛

京麩屋町四条下八

梅村宗五郎

同二条寺町西口入

井筒屋庄兵衛

寶曆十三癸未正月

天地合件討

明拾有九年

正月吉詳

忍川村計

喜仍用